

町議会とあなたを結ぶ

議会だより

しらおい、

184

定例会5・6月会議号

2023年7月31日発行



(白老町手話言語条例制定を記念して北海道ろうあ連盟と記念撮影)



議会だより
(町ホームページ)



議会フェイスブック

P 2

第1回定例会9月会議予定 / 表紙紹介

P 3~12

第1回定例会6月会議 10人の議員が代表・一般質問

P 13

委員会報告(広報広聴) / 定例会報告

P 14~15

政策研究会中間報告 / 議会のうごき

P 16

議会報告会配信のおしらせ / 編集後記

北海道にある、元気まち



しらおい

～ 令和5年 第1回定例会6月会議 ～

代表質問		① 質問回数は3回までとし、質問時間の制限なし ② 最初の質問は一括質問とし、それ以降は分割質問とする	
会派 公明党 <u>氏 家 裕 治 議員</u>	3ページ	会派 いぶき <u>久 保 一 美 議員</u>	6ページ
① 町政執行方針について		① 町政執行方針について	
会派 日本共産党 <u>森 哲 也 議員</u>	4ページ	会派 みらい <u>及 川 保 議員</u>	7ページ
① 町政執行方針について		① 町政執行方針全般について	
会派 ひかり <u>佐 藤 雄 大 議員</u>	5ページ	会派 きずな <u>前 田 博 之 議員</u>	8ページ
① 町政執行方針について		① 大塩町長の所信表明と政策の実効性(実現)について ② 教育行政執行方針について	

一般質問		① 質問時間は1人45分以内（答弁の時間を含まない） ② 一問一答方式（時間内で何度でも再質問が可能）	
<u>長谷川 かおり 議員</u>	9ページ	<u>貳 又 聖 規 議員</u>	11ページ
① 地域共生社会の実現に向けて ② 優しいまちづくりについて		① 人口減少社会におけるまちづくりについて ② 「住み慣れた地域で、町民がいつでも安心して医療が受けられるまち」について ③ 白老町人材育成基本方針と効率的な行政運営について	
<u>西 田 祐 子 議員</u>	10ページ	<u>大 淵 紀 夫 議員</u>	12ページ
① DX(Digital Transformation)推進について ② 教育行政について		① 財政について ② 白老地区以外の地域振興策について	

定例会9月会議の予定

- 日時（いずれの日も10時から）
- 9月1日（金）議案説明会
- 9月5日（火）本会議（一般質問）
- 9月6日（水）本会議（一般質問）
- 9月7日（木）本会議（一般質問）
- 9月8日（金）本会議（一般質問・一般議案）
- 9月11日（月）本会議（予備日）
- 9月12日（火）～14日（木）決算審査特別委員会
- 9月15日（金）本会議（一般議案等・決算認定）
- 会場 議会議事堂（役場2階）
- 日程が変更になることがありますので、詳細は議会事務局へお問い合わせください。
- 電話：82-6620
- インターネットで議会中継を配信していますので、こちらも御利用可能です。

表紙紹介 白老町手話言語条例 制定を記念して北海道ろうあ連 盟と記念撮影

6月23日（金）、第1回定例会6月会議で白老町手話言語条例可決後、条例制定を記念し、北海道ろうあ連盟事務局及び手話関係者、町関係者、町議会議員との記念撮影を行いました。

白老町では、聞こえない人に日常生活や手話言語を深く理解して地域で支え合い、手話を使って安心して暮らすことができる町を目指すため、本条例を制定しました。



公明党
氏家裕治議員

問 高齢者・障がい者支援の在り方は

答 複合化・複雑化する相談への 支援体制の整備が課題

問 小中学生の給食費無償化の拡充は、議会でも様々な視点で取り上げてきた課題であるが、政策決定までの経過は

町長 議会での議論や、内部検討、総合教育会議での協議を経て、一部無償化を実施してきた。

今年度からは、これまでの取組を踏まえ、物価高騰による保護者の負担軽減や子育て支援として、小中学生の3学期分の給食費を無償化する予定。

問 教育・生涯学習に関連し、時代に対応したデジタル教育の充実を進めるとあるが、心の豊かさや社会の中で力強く生き抜くための人材育成の考えは

町長 教育においては、予測困難な時代であっても子供たちが課題解決などを通じて、持続可能な社会の創り手としての資質や能力の育成が求められている。

町では、デジタル教育の充実を図るとともに、子ども憲章の具現化や白老未来学などの様々

な教育活動を通して、ふるさとへの誇りや愛着を持つことができるひとつづくりを進めていく。

問 健康づくり、高齢者・障がい者支援に関連し、認知症や難病で苦しむ当事者や家族への支援の在り方は

町長 生活習慣病の発症及び重症化予防のため、特定健診、各種検診、保健・栄養指導に取り組んでいるが、特定健診等の受診率が低いことが課題である。



虎杖小とのオンラインによる遠隔合同授業（竹浦小）

また、認知症の方とその家族を地域で支え、見守る体制づくりの構築や障がい者への包括的支援、難病のため日常生活の支援が必要な方への障がい福祉サービス利用等の支援など、複合化・複雑化する相談内容に対する支援体制の整備が課題となっている。

問 農協や漁協など関係機関と連携して地域ブランド力向上と資源を守り育て高める第一次産業を推進し、港湾施設の整備により、安全と作業環境の確保に取り組む具体的な考えは

町長 農業は、ゲノミック評価費用支援の継続など、白老牛のブランド力向上を図る。林業は、私有林整備の促進を図るため、森林環境譲与税を活用した事業等を進める。漁業は、漁場環境の整備や種苗放流を漁協と連携し進める。港湾施設は、漁業者や漁港区利用者の安全確保のため、関係機関と協議等を進める。



日本共産党
森 哲也議員

問 公共施設使用料の減免・免除の申請を簡素化すべき

答 充分に考え、町民の生きがいづくりの場を提供する

問 出生数の減少と子育て政策についての考えは

町長 過去3か年度の出生数は、令和4年度34名、3年度49名、2年度45名となっている。

子供を持つことを希望する誰もが安心して妊娠、出産、子育てできるよう、伴走型相談体制の充実や経済的負担軽減など、切れ目ない子育て支援を推進し、出生数の回復に努める。

問 人口減少・労働力不足の状況と対応策は

町長 国勢調査の結果を平成27年度と令和2年度で比較すると、労働力人口は9%減少の6906人、事業所数は0.7%減少の834件となっている。

事業所数はほぼ減少していないものの、人口や労働力人口は減少し、高齢化率が上がっていることから、人口減少かつ労働力不足の現状が読み取れる。現状を打破するべく、合同企業説明会や白老東高校にて合同企業学

習会を開催しており、今後も就業率の向上と労働力不足の解消に取り組む。

問 町民主体の生涯学習を支援する上で、公共施設の使用料減免・免除の申請手続きを簡素化すべきでは

副町長 公共施設の使用料減免や免除には3年ごとに申請が必要となる。申請書類の簡素化は充分に考え、多くの町民の生きがいづくりの場の提供に努める。



減免申請などの相談窓口（町内会連合会）

問 安全安心なまちを目指す上で、白老町国民保護計画の推進や平和のまち宣言の浸透も重要と考えるが見解は

町長 ミサイル発射情報が頻発化しており、平素から関係機関等との連携を密にし、有事に備えた体制の整備を図っている。

また、平和のまち宣言は、町政施行50周年を機に宣言されたものであり、平和のまち宣言の「平和は、人が生きるための基本であり、わたしたち白老町民の願いそして人類共通の願いです。」の思いを将来にわたって町民と共有し、世界平和の実現に努めていかなければならないと考えている。

問 平和について考えるきっかけづくりが重要な情勢である。

平和のまち宣言をしている町として、より取組強化が必要では

町長 来年は町政施行70周年にあたり、もう一度考える機会としたい。



ひかり

佐藤雄大議員

問 町長の4年間の覚悟と決意は

答 スピード感を持ち、
新しいことに挑戦していく

問 医療費、給食費の無償化について、今後の展望は

答 弁 子ども医療費は今年8月から医療機関窓口での自己負担がなくなり、給食費は今年度から小中学生の3学期分、年間40食分の無償化を実施予定である。今後の拡充については、実態把握を踏まえてしっかりと考えていきたい。

問 既存の賑わい創出の行事等を生かし、町民が活気を感じる賑わい創出をすべきだが見解は

町長 賑わいの創出においては、町民にも楽しんでもらえることが重要であるため、様々な工夫をしながら考えていきたい。

問 消防・救急体制における今後を見据えた設備等の更新の在り方についての見解は

町長 消防車はおおむね25年稼働をめどに更新を図っているが、近年、車両価格の高騰により更新計画が延伸している。

今後においては東胆振消防指

令業務共同運用の令和8年度開始に向け、関係機関と協議を重ねている。

問 近年事故が起きている漁港区の整備等、一次産業従事者の現場の実態把握や協議をより実施すべきであるが見解は

副町長 漁港区の岸壁上部の補修を実施予定であり、今後も点検等を実施していきたい。

現場の意見を集約し、把握することは政策への反映に必要であるため、取り組んでいきたい。



ポロトミンタラフェスティバルの様子

問 オンライン役場の実現に向けて、地域おこし企業人の制度の活用や民間企業の専門人材を導入し、推進速度を向上させるべきでは

町長 まずは庁舎内で核となる組織を強化することが優先である。今後、必要に応じて外部人材の活用も検討していきたい。

問 タウンミーティングの実施により、町民の声を聴くことは重要である。現場主義の町政運営を目指し、前例にとらわれない決断をしていく町長の4年間の覚悟と決意は

町長 タウンミーティングでは、まちづくり意識調査の結果を踏まえて、町民と対話をしていきたい。

決意としては、めまぐるしく変化する社会情勢を敏感に察知し、スピード感を持ちながら、新しいことに挑戦していく気持ちを失わず、全員で知恵を絞り、手を取り合って進めていきたい。



いぶき
久保一美議員

問 旧社台小学校の利活用について

答 庁舎内で職員提案を 募りながら検討している

問 様々な理由による未婚化の進行や若い世代における経済的負担を懸念した結婚や子供を持つことの不安などへの対応は

町長 特に若い世代への多面的支援が重要と捉えており、子供を持つことを希望する誰もが安心して結婚・妊娠・出産・子育てができるように切れ目ない支援を継続して進めていく。

問 高齢者支援としての公共交通について、高齢者が利用しやすい環境への改善は

副町長 毎年のように、運行ダイヤやルートの見直しに努めている。体験会などを開催して周知を図り、足の確保を進めているが、さらに検討を進めていく。

問 ほかの町では、不法投棄対策の強化策として、子供が作成した不法投棄の防止を呼びかける看板を設置しているが町の考えは

副町長 可能なことであると考える、内容などを検討したい。



利活用が求められる旧社台小学校

問 旧社台小学校は町民も使える利活用策を求めているが

副町長 庁舎内で職員提案を募りながら検討している。

また、地域の皆さんとも協議の機会を持てるよう考えている。

問 白老文化芸術共創プロジェクトが虎杖浜・社台地区に設置している野外写真展について、来年以降も町の資源として残していく必要性があると思うが支援の考えは

副町長 取組は承知している。今後、協力関係について考え、進めていきたい。

問 高齢化に伴い町内会役員となり手不足による自主防災組織の活動力の低下が課題となっている。現状のままでは、防災力の強化どころか衰退の一途をたどると予測するが対策の考えは

副町長 単体の町内会だけではなく、連合町内会での活動ができるよう進めていきたい。

問 社台地区一時避難所の社台墓地にスロープ設置の考えは

副町長 現状では、年に2回ほど草刈りを実施しているが一時避難所としてのありようなど、見直しも必要と考えている。

問 未来に向かうこれからの白老のまちづくりの考えは

町長 公約である役場・町立病院の改革、人口減少対策などを多角的に進め、白老に住んでよかった、住み続けたいと思えるまちづくりをしていきたい。



みらい 及川 保議員

問 若年層の移住・定住策を 行政が横断的に進める考えは

答 組織体制の検討と 支援・促進に取り組む

問 若年層や子育て世代の移住・定住対策は喫緊の課題であり、行政全体が横断的に進めるべきだが、推進体制等の考えは町長 人口減少、特に急速な少子化は深刻な課題であり、執行方針の「子供は「まちの宝」」を念頭に、子育て環境等の充実に努める。

また、関係団体と連携しより効果的な組織体制の検討等、町全体として子育て支援、移住・定住促進に取り組むたい。

問 学校給食費の無償化の拡充を示されたが、他の自治体に先んじた大胆な政策が必要では

町長 令和2年度から年間10食分の一部無償化を実施してきたが、今年度から小中学生の3学期分の給食費を無償化する予定。今後は、より効果的な政策を実施していく。

問 商工観光業のポストコロナの取組が重要となるが、町内の景気動向や課題、具体策は

町長 約3年4か月続いたコロナは、地域経済に大きな影響を及ぼした。加えて物価や燃料の高騰など生産者や事業者の経営環境は大変厳しい。町としてコロナ対策の支援を実施してきたが、引き続き地域経済の活性化と経営安定化対策に努める。

問 農業・漁業は基幹産業であるが、物価高騰の影響で厳しい経営を強いられている。現状と課題を踏まえた町独自の支援策は

町長 一次産業の経営は今なお厳しい状況のため、引き続き関係機関と連携し対応していく。

問 北海道近海におけるマグニチュード9級の巨大地震と津波への備えは

町長 白老町地域防災計画を基本に、胆振東部地震等の教訓を踏まえ、避難所運営マニュアルや備蓄計画などの見直しを行い、防災・減災対策を進めている。

また、津波による緊急避難場所や避難所の確保、避難路の整備や避難行動要支援者の支援体制の確立が重要だと捉えている。

問 町民の防災・減災意識を高める「防災訓練」の在り方と今後の進め方は

町長 本年度は全町一斉避難訓練に加え、虎杖浜地区を拠点に避難所運営訓練の準備を進めている。防災訓練の継続が、地域防災力の向上に欠かせないと捉えており今後も実践的な訓練となるよう工夫して実施していく。



防災訓練での簡易トイレの使用法の説明



きずな
前田博之議員

問 新町立病院の建築着工時期と
開院時期は

答 原則として着工は9月頃
開院は令和6年10月末を目指す

問 新町立病院の建設が当初計画から遅々として進まないことに不安や疑問を抱いている。新病院の建築着工めどと事業費の状況、明確な開院時期は

町長 建築費は提案価格から10%以上の価格上昇で現在、価格交渉を重ねている。原則として9月頃から着工し、開院は令和6年10月末を目指している。

問 町民に愛され信頼される町立病院を目標にしているがその手段は

町長 病院職員が病院経営や内部改革に対する意識を持ち、常に患者目線で物事を考え行動することが必要である。これまで以上に病院長との連携を密とし、内情の把握や情報共有に努めながら信頼される病院づくりに取り組んでいく。

問 畜産農家の担い手や後継者不足、そして数年来のコストアップ等で畜産経営は厳しさを増している。最近、白老牛ブランドの知名度が薄らいでいるようであり、これまで以上に知名度を高めなければならない。コロナ禍で中断されている町のメイニイベントである「白老牛肉まつり」の今年度の開催状況は

副町長 これまでの会場は柳などが繁茂しており、会場の整備費用が物価高騰の影響を受け高額となったことや規模を縮小しても場所の確保ができないことから、今年度の開催は厳しい。



学校給食を食べている様子

問 「切れ目のない子育て支援」として小中学生の給食費無償化を拡充するとしているが、その方針と具体的な目標設定は

町長 小中学生の3学期分の給食費を無償化予定。事業効果の検証や子育て世帯の実態把握などを行的効果的な取組としたい。

問 給食費無償化の到達点は

町長 一部無償化にとどまる。

問 町長は、「信頼される役場への改革」を掲げている。「町民目線」と「現場主義」を徹底することが町民から信頼される役場改革の一里塚と考えられる。信頼される役場への改革に向けた基本姿勢と組織体制の構築は

町長 信頼関係構築のため、町民との対話を重ね、地域とともに課題解決に向けて誠実に行動する職員の育成に取り組み、多様化する行政課題にスピード感を持ち、的確に対応できる組織体制を構築し、信頼される町政、開かれた町政の実現に努める。

問 「ワンストップの総合相談窓口」 早期開設の考えは

答 組織機構の改革等 3年間で準備を進める



長谷川かおり議員

問 地域住民の複合化・複雑化した支援ニーズに対応する重層的な支援体制の整備は

町長 現在は、障がい者、高齢者、子供という対象者の担当課で対応し、複数の課にまたがる場合は連携会議を開き情報を共有して対応している。今後は課題全体を捉えて関わる包括的な支援体制を構築する必要がある。

問 重層的な支援体制整備事業の取組は

町長 既存の支援体制を整理するとともに、潜在的な支援ニーズや制度の狭間にあるニーズをどのように把握し支援するか協議し、個別の支援会議を開催するなど支援体制を強化していく。

答弁 コーディネーター的役割の人材確保と困窮者支援を町独自で実施可能か課題整理が必要。

問 「ワンストップの総合相談窓口」の早期開設の考えは

町長 充実した相談体制を整えるため、組織機構の改革等を行

い3年間で準備を進める。

問 聴覚障害者のオリンピックと

と呼ばれるデフリンピック大会が2025年に日本で初めて開催される。知名度を上昇させ、理解促進を図る今後の取組は

答弁 デフリンピックムーブメントを考えながら分け隔てなくスポーツに触れ、誰でも取り組めるスポーツを町内体育振興に携わる関係団体と進め方を検討していく。



男性用トイレに設置されたサニタリーボックス

問 男性トイレに

サニタリーボックス設置は

答 いきいき4・6から

先行的に行う

問 近年男性の膀胱がんや前立腺がんが増加し、尿漏れパットの捨てる場所がなく困っている方がいる。男性トイレにサニタリーボックスを設置する考えは

答弁 第4期がん対策推進基本計画に生活の質の向上をうたっている。保健福祉の拠点となるいきいき4・6から先行的に導入を検討したい。

問 ポストコロナとなりウポポイを中心に観光客の入込客が伸びているが白老駅北周辺の環境整備は

町長 ウポポイ開業に伴い様々な整備が行われてきたが、今後よりよい環境が維持・更新できるよう関係機関と協議しながら進めていく。



西田 祐子議員

問 DX推進における
行政の課題と対策は

答 人材確保と育成が課題、
職員の意識や技術の向上を図る

問 商工会・観光協会・社会福祉協議会等のデジタルトランスフォーメーション（DX）推進の課題と対策は

町長 商工会や観光協会ではキヤッシュレス決済の推進、SNSを活用した周知活動、社会福祉協議会では各研修の受講や一部の団体活動にSNSによる参加申込みや事務連絡等を行っている。共通の課題として、必要性を感じていない、操作方法が分からない等の理由により広く活用が進んでいない。活用のメリットや操作方法の説明、研修等の実施により、会員などの理解促進を図っていくことが必要。

問 民間企業のデジタル化整備の課題と対策は

町長 本年10月からインボイス制度が始まり、デジタル機器の整備がより一層求められるので、商工会等の関係機関と連携し、デジタル化の推進に取り組む。

問 誰一人取り残さない、人に

優しいデジタル化に向けた格差解消対策とは

町長 DX推進計画では、誰もがデジタルを活用し、安心安全に暮らせるよう行政が率先してデジタルデバйд解消に取り組む。

・DXとはデジタル技術を用いることで生活や仕事等が変容していくこと

・デジタルデバйдとはコンピュータなどを使える人と使えない人の間に生じる情報格差



初心者向けのパークゴルフ体験講座

問 児童生徒の貧困率は

答 準・要保護の児童は
192人認定率26・6%

問 特別支援教育の児童・生徒
過去10年の推移と現状と課題は

教育長 昨年度の児童生徒数は、小学校29人、中学校16人、全児童生徒の平均5・9%、10年間で約1・5倍増加。教職員の特別支援教育への理解と専門性を向上させること、乳幼児期からの切れ目のない支援が重要である。

問 町内スポーツ施設の有効活用と幅広い世代がスポーツに親しめる具体的な取組は

教育長 昨年、出張公民館講座で、民間事業者の協力を得て、初心者向けパークゴルフ体験講座を開催し、教育委員会、健康福祉課、高齢者介護課の連携のもと、町民の健康増進と介護予防への取組を行った。

問 介護老人保健施設きたこぶしの 今年度の赤字見込み額は

答 約6千万円の赤字見込み



貳又聖規議員

問 人工透析患者の現状と課題、当事者と支える家族の切なる思いをどのように捉えているか

町長 人工透析治療を受けている方は6月現在60名おり、町の送迎サービスの利用者は21名となっている。人工透析は週3回の通院が必要となるが、治療や移動が長時間となり身体的な負担が大きく、より近い場所で透析を受けられることが当事者や家族の思いだと捉えている。

問 「介護老人保健施設きたこぶし」の今年度の赤字見込み額は

答 弁 現在の入所者数は3名であり、今年度予算の積算根拠一日平均入所者数19名に及ばない状況である。このまま低迷が続くと5年度末で約6千万円の赤字見込額が想定される。

問 きたこぶしは「介護医療院」とするよりも「透析病棟」のほう

副町長 経営的収入面で確か

に「透析」ということはあるが、新病院は透析機能を省いている。

問 看取りの状況と課題は

町長 令和4年度における町立病院を含む町内医療機関の在宅訪問診療の看取り実績はない。

問 「慣れ親しんだ地域で最期を迎えたい」と希望する町民は多くいるが町の考えは

副町長 需要はあると認識しており、本町が目指す医療として、十分考えていきたい。



存続が危ぶまれる白老東高校

問 白老東高校の欠員状況は

答 26名の欠員である

問 令和6年度から8年度における公立高校配置計画案が発表されたが、白老東高校の現状は

教育長 この3年間変更はない。

問 10年後のまちの姿を見据えるべきであり、人口減少が進む中、白老東高校の統廃合は目に見えているが欠員状況は

教育長 今年度80名の間口に対して54名の入学があり、26名の欠員である。

問 十勝管内の大樹高校では地域と連携して航空宇宙分野の教育を行う新学科が設立される。人口減少への危機意識が足りないのではないか

副町長 町長を先頭に取り組む。普通科で本来にいいのかを含めて、ウポポイを利用させていた大きな魅力を進めるなど、町としても考えていく。

問 令和4年度の決算状況は

答 3億3,645万円の黒字である



大淵紀夫議員

問 令和4年度の歳入・歳出の特徴及び決算状況と評価は

町長 特徴としては、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業として総額3億4256万1千円の事業を実施したほか、ふるさと納税は、過去最高額の9億5987万6500円の寄付をいただいた。

一般会計の決算状況は、3億3645万円の黒字であり、各特別会計及び企業会計も赤字の発生はない。財政指標についても改善する見込みである。

問 起債残高と基金残高の現状は

町長 起債残高は前年比2億2952万円減の87億8422万2千円、基金残高は31億4214万5千円となっている。

問 町立病院及び介護老人保健施設きたこぶしの経営状況と新病院建設費の財政変化は

町長 町立病院は、5月末現在で1日平均入院患者数が15・8名、外来患者数が118名とな

っている。介護老人保健施設きたこぶしは利用者が3名にまで落ち込むなど、厳しい状況にある。

新病院建設は、現在までに一定の財源確保にめどが立ったところであるが、物価上昇に伴う事業費増嵩に苦慮している。

問 財政における政治姿勢と具体的な政策実現の方向性は

町長 町民との対話を重ねることとで地域の現状や課題を共有し、財政状況を踏まえた適時適切な財政運営を行っていく。



老朽化した竹浦駅

問 若い人が中心に振興策を考える仕組みを作っては

答 若手の発想を大事に、

仕組み構築を考えたい

問 総合計画等町の計画を見ても具体的な地域の振興策が読み取れないが考えは

町長 「人口減少・少子高齢化の急速な進行」に対応するため、持続可能なまちづくり実現が重要であることから、各地域の課題と向き合っていく考えである。

問 竹浦地区を例に挙げると保育園、中学校、歯科、役場出張所がなく、商店はコンビニエンスストア1店舗であるが、生活維持と並行した振興策は

町長 住み慣れた地域で生活を維持し、安心して住み続けるためには、公共交通の充実により生活利便性を確保するとともに、各地域の特色を考慮しながら今後の方向性を検討したい。

委員会レポート

広報広聴常任委員会

本委員会は所管事務調査を行い、その結果を定例会6月会議で報告した。

(1) 常任委員会

【議会報告会の実施】

動画配信による議会報告会の実施を決定した。

(2) 小委員会

【議会報告会の企画及び運営】

議会報告会の実施に向け、企画・調整を行った。

【議会広報の編集・発行】

議会だより第183号の編集・発行を行った。



定例会5月・6月会議報告 ～議決結果をお知らせします～

予算

- ◎定例会5月会議
- ▼一般会計補正予算(第2号)
- ◎定例会6月会議
- ▼一般会計補正予算(第3号)
- ▼国民健康保険事業特別会計補正予算(第1号)
- ▼港湾機能施設整備事業特別会計補正予算(第1号)
- ▼介護保険事業特別会計補正予算(第1号)

条例

- ◎定例会5月会議
- ▼子ども医療費助成条例の一部を改正する条例の制定
- ▼国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定
- ◎定例会6月会議
- ▼手話言語条例の制定
- ▼自然環境等と再生可能エネルギー発電事業との調和に関する条例の制定
- ▼職員の特殊勤務手当支給条例の一部を改正する条例の制定
- ▼税条例の一部を改正する条例の制定
- ▼火災予防条例の一部を改正する条例の制定

人事

- ◎定例会6月会議
- ▼固定資産評価審査委員会委員の選任
- ・山口美津男 氏(74歳・末広町)
- ▼農業委員会委員の任命
- ・勝沼 正則 氏(61歳・字白老)
- ・山下 廣司 氏(70歳・竹浦)
- ・大浦 俊秋 氏(65歳・北吉原)
- ・阿部 高幸 氏(53歳・石山)
- ・植田 壽恵弘氏(78歳・本町)
- ・上村 篤正 氏(54歳・北吉原)
- ・桔梗原光男 氏(41歳・虎杖浜)
- ・山田 和子 氏(64歳・東町)
- ・齋藤 拓大 氏(45歳・緑丘)
- ・吉田 隆三 氏(45歳・字白老)
- ▼人権擁護委員の推薦
- ・塚原 光博 氏(68歳・末広町)
- ・横山 秀人 氏(63歳・虎杖浜)

報告

- ◎定例会5月会議
- ▼専決処分の報告(令和4年度白老町一般会計補正予算(第14号))
- ▼専決処分の報告(国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定)
- ▼専決処分の報告(損害賠償額の決定)
- ◎定例会6月会議
- ▼令和4年度一般会計繰越明許費繰越計算書
- ▼令和4年度一般会計繰越し繰越計算書

発議案等

- ◎定例会6月会議
- ▼議員の派遣承認
- ▼委員会所管事務調査の報告
- ・広報広聴常任委員会
- ▼政策研究会の中間報告
- ・人口減少に対応する政策研究会
- ▼令和4年度下水道事業会計予算繰越計算書
- ▼白老町が出資等をしている法人の経営状況説明書の提出
- (1)一般財団法人白老町体育協会令和4年度事業報告及び令和5年度事業計画
- (2)一般社団法人しらいおび振興センター令和4年度事業報告及び令和5年度事業計画
- ▼専決処分の報告(損害賠償額の決定)
- ▼例月出納検査の結果報告

意見書

- ◎定例会6月会議
- ▼特別支援学校・学級等への教員等の適切な配置を求める意見書
- ▼再審法改正を求める意見書
- ▼ゼロカーボン北海道の実現に資する森林・林業・木材産業施策の充実・強化を求める意見書

人口減少に対応する 政策研究会中間報告

若者の定住促進及び人口減少に対応する政策研究をテーマとして、令和3年9月会議及び12月会議において中間報告を行い、町に対し地域おこし協力隊を念頭においた政策提言を行った。

令和4年度以降は、引き続き地域おこし協力隊の活動検証及び子育て世代を呼び込むための政策研究を中心に、関係団体との懇談や現地調査等を行った。

1 地域おこし協力隊について

【現状と課題】

現在の協力隊員は、観光振興3名、食と観光振興1名、芸術文化振興1名、森林ガイド担当1名、アイヌ文化振興1名の合計7名であり、本町の特性を生かした地域の活性化が期待される。

しかし、活動において、改めて行政との地域課題の共有や町政との連動が不可欠である。また、活動資金の確保や3年後の自立に向けた金銭的な不安など町への支援を求める声もあった。

【政策研究会の意見】

(1) 活動環境・支援体制の充実
① 政策課題を踏まえ、協力隊とのビジョンの共有が必要である。
② 3年後の定着に向けた予算措置と幅広い支援が必要である。
③ 活動旅費等の柔軟な運用など、制度の見直しや支援体制の充実を図る。

(2) 地域課題とのマッチング

① 町内の各事業者に対し、現状把握やニーズ調査等が必要である。
② 調査における専門の協力隊員の募集を図り任期満了後には地域コミュニティを担う人材確保も考えられる。
③ コミュニティナースの取組や空き家の活用、地域の祭りや町内会活動の継承、観光DMOや



地域おこし協力隊との懇談の様子

スポーツ振興における指導員の確保、有害駆除対策等においても、担当課レベルで人材確保に努めるべきである。

(3) 政策実現のための協力隊の在り方
① 人口減少対策の政策立案にあたり、人材確保や担い手対策において、協力隊の活用方をさらに徹底すべき。

2 芸術文化について

【現状と課題】

昨今の町内の芸術文化の取組

において、世代を超え地域での交流が盛んに行われ、町外からの来訪者なども含め関係人口の創出には大きな効果があり、アーティストが繰り出す新たな現代アートが展開され、創作活動における活動拠点としての定住促進にも効果が期待できる。

今後は、アーティストの創作活動の拠点の確保や空き家や公共施設の未利用物件なども可能性を追及する必要があり、ア



仙台藩元陣屋資料館への現地視察

ティストレジデンス事業としての効果の反映、観光文化における町の政策への位置づけを具体的に示すことが課題である。

【政策研究会の意見】

① 日常レベルの芸術文化活動の充実を図り、多角的な視点で本町の豊富な地域資源を活用し、関係人口の創出を図るべきである。

② ウポポイと連携した町内の文化度の向上に努めるべきである。
 ③ 高橋房次氏の精神性を描いた伝記の映画化を検討すべきである。
 ④ 仙台藩白老元陣屋において、地域の方々でのボランティアガイドを充実させ、より発信する必要がある。
 ⑤ 町として（仮称）文化観光課の設置や観光DMOの有効活用（町民ガイド等）をすべき。

3 子育て支援について

【現状と課題】

NPO法人お助けネットを中

心に地域住民との連携や保健師などの担当職員が対応を行っているため、地域で安心して子育てできる環境は充実している。

しかし、出生数の低下が著しい昨今では、人口増を図るための施策を進め、子育て世代の増加を見込まなければ、本町の子育て政策は報われない。

また、町内の子育て関係団体との懇談を通じて、本町の子育て環境における情報発信や地域の遊び場の充実等が課題である。

【政策研究会の意見】

① 特色ある子育て支援における施策等の情報発信に努め、親子での相対的な視点で長期的に実践すべきである。

② 子育て世代が安心して暮らせるまちの実現のため、学ぶ場や遊ぶ場の環境整備に努めるべき。
 ③ 親が働く環境があればこそ町の子育て支援が役立つことであり、出生数の向上に向けて様々な取組を考えるべき。

■議会のひびき■

■定例会・委員会等

【4月】

- 12日 政策研究会
- 18日 広報広聴小委員会
- 18日 総務文教常任委員会
- 25日 産業厚生常任委員会
- 26日 議会運営委員会

【5月】

- 9日 議案説明会
- 10日 全員協議会
- 12日 議会運営委員会
- 12日 政策研究会
- 12日 定例会5月会議（日程第1号）
- 24日 全員協議会
- 24日 広報広聴小委員会
- 24日 産業厚生分科会
- 24日 産業厚生常任委員会
- 24日 政策研究会
- 24日 総務文教常任委員会

【6月】

- 2日 議会運営委員会
- 7日 定例会6月会議（日程第1号）
- 7日 全員協議会
- 9日 政策研究会
- 9日 議会運営委員会

- 14日 議案説明会
- 14日 広報広聴常任委員会
- 14日 議会運営委員会

- 20日 定例会6月会議（日程第2号）

- 21日 定例会6月会議（日程第3号）

- 22日 定例会6月会議（日程第4号）

- 23日 議会運営委員会

- 23日 定例会6月会議（日程第5号）

- 23日 全員協議会

- 23日 総務文教委員会協議会

- 26日 政策研究会

■視察対応

- 18日 つくば市議会

- 11名

【6月】

- 28日 大石田町議会

- 9名

北海道町村議会議員研修会



7月4日（火）札幌コンベンションセンターで行われた議員研修会に出席しました。

白老町議会報告会のお知らせ

9月1日から

報告会を

動画配信します！

昨年動画視聴回数が

800回を超えました！

皆様のご感想をお寄せください！

右記のQRコードより動画
をご視聴いただけます。



配信内容

議会全体の動き、議会運営委員会
総務文教常任委員会、産業厚生常任委員会
広報広聴常任委員会、政策研究会
※令和4年の活動と4年間の総括を報告します。

視聴方法

YouTube、白老町議会ホームページ内で公開

インターネットでの検索はこちら →

白老町 議会報告会 🔍

○動画公開期間：9月1日（金）から9月30日（土）まで

○質問方法：白老町議会事務局ホームページ内の質問様式に記入の上、メールまたはFAXで送信してください。

○質問送信先：《メール》gikai@town.shiraoi.hokkaido.jp 《FAX》0144-82-3381

○問合せ先：白老町議会事務局 ☎0144-82-6620

編集後記

歴史は繰り返す、2022年2月ロシアによるウクライナ侵攻から一年が過ぎた。両国での多くの犠牲者、市民の悲しみ・苦しみ・憎しみ、子供たちはこの戦争から何を学ぶのだろうか。一日も早い終息を願うばかりだ。

6月会議、大塩町長就任後初めての町政執行方針。代表質問6会派、一般質問4名による町政に対する熱き議論が交わされた。

いくつかの具体策を明記した執行方針は、おおむね理解できるものの、課題も山積している。町長の目標実現の根幹にあるものは、町民との対話。議会議員も町民から選ばれた一人ひとり。「町民生活向上・幸せ感じるまち」実現のため、町民とともに歩みを進めなければならぬ。

デジタル化社会、急速に進む時代の変化。昨今、社会の中で力強く生きるための心の大切さを痛切に感じる。見えない相手から依頼され犯罪に手を染める若者、心の未熟さからなかなか自分よりも弱いと思った人間を力でねじ伏せ傷つけ、殺めてしまう多様化する犯罪の様々。

ゲームのように人の人生はリセットできない、人を育てるとはどういうことか「心に問いかけ寄り添う」教育の時間が人を育てる、私はそう信じた。

（7月11日 記 氏家 裕治）